令和8年10月　定例教育委員会要点録（公開用）

1. 開催日時　　令和8年10月21日（水）15時00分～16時30分

2. 場所　　高千穂町役場　執行部控室

3. 出席者

委員	教育長	戸敷二郎
	教育委員	佐藤幸男
	教育委員	戸髙牧子
	教育委員	佐藤有美
	教育委員	安在　直
事務局	教育次長	湯川　哲
	課長補佐	佐藤純子
	主幹	大石　彰

4. 教育長あいさつ

5. 前回議事録の承認

6. 講話　　教育委員　戸髙牧子

7. 協議

（1）議案第10号「通学区域外通学の許可について」

（2）議案第11号「高千穂町立小学校における学校給食費支援事業実施要綱の制定について」

（3）令和7年度高千穂町教育委員会の自己点検・評価の考察について（報告）

（4）宮崎県北部地区管内教育委員会合同研修会について（高千穂町）

（5）町教育委員視察研修について

（6）その他

9. 11月行事予定

1日（日）　ハロウィーンウォークin高千穂2026

1日（日）　第68回西臼杵郡民総スポーツ祭

2日（月）　宮崎県北部地区管内教育委員会合同研修会（高千穂町）

3日（火）　伝承天岩戸夜神楽大公開まつり

4日（水）～6日（金）　6年生修学旅行

5日（水）～6日（金） 第54回九州ブロック社会教育研修大会（熊本市）

6日（金） 県中学校駅伝競走大会

19日（木）～20日（金） 九州地区公民館研究大会（那覇市）

22日（日）～23日（月） 神話の里高千穂夜神楽まつり

24日（火） 議会定例会本会議（初日　提案理由説明等）

24日（火） 第17回宮崎県市町村駅伝競走大会結団式

27日（金）～29日（日） たかちほハートフル作品展（管理センター）

28日（土） のべおか小学生プログラミングコンテスト表彰式（延岡市）

30日（月） 議会定例会本会議（総括質疑　一部議案採決）

9. 11月定例会開催日程

日時　令和8年11月16～17日　町教育委員視察研修時

会場　研修地（予定　国東市もしくは大分市、臼杵市）

講話　教育次長　湯川　哲　（時間の都合によっては無し）

10. 閉会

【会議の概要】	
教育次長	【開会】
教育長	【あいさつ】 略
教育次長	【前回議事録の承認】 各委員による確認・署名
戸髙委員	【教育委員講話 】 ◇高千穂・日之影の歴史について ～「公民館講座　文化財を知ろう」に参加して～　略
	(1) 議案第10号「通学区域外通学の許可について」
教育次長	資料に基づき説明。特別支援教室へ通学見込み。
教育長	許可基準の1～11、どの項目にも当てはまっていない。 校区内の小学校に特別支援教室がなければ、区域外通学は許可できるが、住居の校区の小学校には特別支援教室は設置済みである。
戸髙委員	読み聞かせで、申請者が区域外通学を希望する小学校を訪問してきたが、現在でも支援が必要な児童が多いと感じた。一つの学校に負担が集中するのではないか。
佐藤有美委員	今年転居しているが、希望する学校校区への転居はできなかったのだろうか。
安在委員	今の理由・状況からは、必要があるとは考えられない。
教育長	申請の差し戻しと不許可の違いは？　今後同様の申請の例となる可能性がある。
教育次長	不許可の場合、今後同じ理由では、申請できない。
教育次長	議案第10号の賛否を問う。
委員	全員反対で否決。
	※個人情報の為詳細一部未公開
	(2) 議案第11号「高千穂町立小学校における学校給食費支援事業実施要綱の制定について」
教育次長	資料に基づき説明。国・県による、いわゆる小学校給食費無償化補助（月額5,200円）と各学校給食費との差額を町が支援する為の要綱。今年度最高額の小学校月額給食費5,789円を基準に、町負担は児童1人当たり月額600円を上限とした。現時点では保護者負担はゼロである。次年度の補助額や給食費自体の改定可能性があるが、町は新年度予算作成の11月半ばまでに学校と協議して次年度給食費を決定する予定である。
教育長	学校給食用米は、特別栽培米を使用しているが、今年度示された米価格について、生産者の状況はどうなのだろうか。
佐藤有美委員	米価の変動に関わらず、農業機械や肥料などのコストは高止まり。生産者の経営は厳しいと思う。
直委員	近年は農業機械等が高騰し続けている。
教育長	えびの市ではパン給食がなく、昭和50年代から米飯給食のみである。本町では、パン事業者が1社となり小規模校しか対応できない為、大きい学校の分は学校給食会の冷凍パンを使用している。五ヶ瀬町は、米粉パンを使用。熊本では、3年前から国産小麦に切り替えている。本町でも、将来的には地元米の利用拡大と農家支援の観点から、基本米飯給食と考えている。ただし、子ども達に人気の揚げパンについては、年に数回は提供してあげたいと思う。
佐藤幸男委員	米の方がおかずの献立が立てやすいと思う。
教育次長	議案第11号の賛否を問う。
委員	全員賛成で承認。

	(3)令和7年度高千穂町教育委員会の自己点検・評価の考察について(報告)
教育次長	資料に基づき説明。外部有識者による教育委員会自己評価では、教育委員会活動、教育委員会が管理執行する事務、教育長に委任する事務は、全体として80%以上の達成率であり、適正かつ良好に管理執行されているとの評価を受けた。 教育委員会の活動は9割が、四および五の評価。定例教育委員会では、各委員の講話が定着し、教育委員全員の意欲や資質向上につながっている。また、公開会議と教育懇談会を行い、教職員やPTA役員、学校運営協議会との現場での意見交換会や情報交換が行われていることについても高い評価をいただいた。 昨年度から定例教育委員会の会議の議事録をホームページ公開していることも評価いただいた。教育委員会が管理執行する事務は、全てが四および五の評価。上野中学校は高千穂中学校に統合され、順調な経過。また、国スポ室が準備室から、推進室となり、積極的なPRとして通信発行しており、町民全体の意識向上につながっている。今後も県本部との連携と大会成功に向けての町全体の協力体制を維持してほしいということであった。 教育長に委任する事務では、昨年度の課題解決に努力されたものと評価いただいた。 項目では、(1)学校教育の充実、学力テストの結果を見ると、おおむね、良好。ただ、自己肯定感の低さや主体的な学習の姿勢についての課題も見られる。 これまで高千穂町全体が力を入れてきた生活リズムの育成や多様な人との関りについては取組の成果が出てきている。「ゆい高千穂事業」の成果がこの結果につながっていると高く評価いただいた。キャリア教育については、キャリア教育コーディネーターを配置について評価をいただいた。 また、学校保健・体育・給食の充実については、持続可能な農業推進協議会と教育委員会の連携が本格化した年度となり、町内産の有機農作物を増やす実験圃場の設置や全国先進地の事例視察、オーガニックビレッジ宣言やその補助金を活用した取組を高く評価いただいた。 不登校児童生徒の支援の対応については、教育支援センター設置が4年目を迎えて、小学生の利用が増え、小中学生が同じ環境で学び合うことで、多様な人間関係が芽生えている。高千穂町のホームページや教育委員会だよりなどで丁寧な情報発信によってセンターの認知度が高まっている。関係者の努力が積み重ねを評価いただいた。 (2)社会教育の充実は、「ゆい高千穂事業」が17年目を迎え、生活リズムポスターや親子3行詩が定着をしてきている。子どもたちの健全育成に重要な一助となっている。また、児童生徒による町内行政無線を活用した、町民全体の適正な生活リズムを作るための呼びかけを高く評価いただいた。 文化財・伝統芸能の保護では、神楽のユネスコ無形文化遺産登録が2年後の見込となり、後継者の育成の観点で取り組んできている「高千穂の夜神楽子ども伝承者のつどい」は、幼、保、小、中、高合わせて100人を超える子どもたちの演舞を披露できている。多数の子どもたちが後継者の意識を持ってきていることは、教育委員会や各種関係団体の地道な努力の結果であると考え、高く評価いただいた。 生涯スポーツの振興では、令和9年度国民スポーツ大会に向け、着実な準備がされている。普及しているモルックについては、モルックセットを各学校に配布し、参観日や親子レクレーションなどで実施されている。自治公民館単位のスポーツ教室などでも実施され、生涯スポーツの推進に効果的な取組であることを評価いただいた。 その他では、高千穂中におけるいじめ未然防止の取組が高く評価され、「全国いじめ問題子どもサミット」の宮崎県代表として発表を行っていることに触れ、継続的かつ担当教員との人間関係の良さの結果の表れと評価いただいた。 総括として、令和7年度、「高千穂グローカル改訂版」が作成され、実践されてきたことで、高千穂町内どの小学校も同じ視点での学びの基礎を培ってきたことが、中学校が1校となったことで、地域学習のアプローチができるようになってきている。その成果が早速、高千穂中学校の全国大会出場、世界青少年志プレゼンテーション、全国いじめ問題子どもサミット、北方領土にまつわる全国スピーチコンテスト等に参加し、宮崎県代表という形で表れている。あわせて、高千穂の夜神楽伝承の育成事業を継続的に行っていることで、多数の子ども達が後継者意識を持っている。今後も、高千穂町が世界に誇れる豊かな自然、神話と歴史、ふるさとを愛する人間性について、常に全国最先端の取組に発展することを期待したい、と全体評価をいただいた。 教育委員会自己点検・評価について議会へ提出する。
戸髙委員	教育支援センターの子どもたちが明るく挨拶し、他者とも自然に関われている様子から、支援が形になっていると感じる。
教育長	教育支援センター利用者は小学生1人、中学生10人、計11人である。学習よりもまず人と関わる力、挨拶、掃除等を通じた社会性の回復を長期的に支援する考えである。教育支援センターから延岡青朋高校、4年大に進学した生徒もいる。

	(4)宮崎県北部地区管内教育委員会合同研修会について(高千穂町)
教育次長	11月2日に開催予定。午後1時30分から高千穂町役場大会議室でキャリア教育に関する研修、3時から高千穂神社神楽殿で宮司講話、4時から高千穂高校神楽保存会による神楽を予定している。
	(5)町教育委員視察研修について
教育次長	11月16日～17日に大分県国東市および臼杵市方面で開催する案で調整中。日程の都合上、定例教育委員会も同日で開催したい。移動時間・距離や会場確保を踏まえ、定例育委員会を訪問先で実施する見込み。行程等調整後、連絡する。
	(6)その他
佐藤幸男委員	上野小6年生の山本一心選手が、陸上で素晴らしい結果を出している。100m自己記録11秒88。来月は、全国大会にも出場する。頑張りを応援したい。
教育次長	10月26日、宮崎市で「県市町村教育委員会連合会研究大会」が開催される。委員3人出席予定。出発は役場玄関前9時30分。帰町は午後7時30分の見込み。台風で中止の場合は連絡する。 公開定例教育委員会を1月19日上野小で開催予定。現在、学校と詳細調整中。社会教育施設での定例教育委員会は、12月に中央公民館・図書館で開催予定。 国スポ室より、国スポだよりと宮日新聞タブロイド紙を配付する。
教育次長	【閉会】